町医者だより

平成22年12月号

＜発行・お問合せ先＞
おおわだ内科呼吸器科
院長　大和田　明彦
市川市南八幡４－７－１３
ｼｬﾝﾎﾟｰﾙ本八幡２階
ＪＲ本八幡駅南口(シャポー改札口）
１分ミスタードーナツ並び
ヘアサロンAsh向かいビル2階
電話０４７-３７９-６６６１

おおわだ
内　科
呼吸器科

ＣＯＰＤ(慢性閉塞性肺疾患）のリスクファクター

ＣＯＰＤという言葉を時々耳にされる方も多いと思います。昔は「慢性気管支炎」と「肺気腫」に分類されていたものが慢性閉塞性肺疾患、ＣＯＰＤに統合されました。この町医者だよりでは１９年１２月号（COPDについて）で取り上げて以降取り上げていませんが、主に長年の喫煙によって酸素の取り込みと二酸化炭素の排出を行う「肺胞の破壊」と「気道の気道閉塞ないし気流制限」を特徴とする慢性疾患です。この「気道閉塞」ないし「気流制限」は、来院されています喘息の患者さんにもたびたび説明させていただいている喘息の特徴的な現象で、喘息とＣＯＰＤは共通の病態を有しています。今回、本年１０月８日アメリカ胸部疾患学会雑誌に掲載されたCOPD発症のリスクファクターに関する論文を中心に話を進めます。

ＣＯＰＤ＝タバコ病

日本呼吸器学会ではＣＯＰＤは喫煙によって引き起こされるとして「タバコ病」と銘打って啓蒙活動や禁煙の推進をおこなっています（http://www.ｊｒｓ.ｏｒ.ｊｐ/ｈｏｍｅ/）。今回紹介する論文は１４歳か４４歳の対象者を１９９１年－１９９３年までの３年間に登録しその９年後の１９９９年から２００２年に再調査して得られたデータからCOPDのリスクファクターが何かを検討しています。そして「喫煙」をその中で最も重要なリスクファクターとして挙げています。

喫煙に劣らず重要なリスクファクターが「気道過敏」と判明

気道過敏は喘息の重要な病態の一つで、典型的な症状として冷たい空気を吸うと咳が出やすくなります。スーパーの冷凍食品売り場に行くと咳がでる方やアイスクリームを食べると咳が出る方は「気道過敏」があると考えます。この「気道過敏」がCOPD発症に重要な事が明らかになりました。さらに論文では「喘息の家族歴があること」と「小児期の呼吸器感染症」を重要なリスクファクターとして挙げています。「喘息の家族歴」は喘息患者では４５－６０％にあると報告されています。このことは、町医者だより本年１０月号（遺伝子解析から見た喘息）でも述べたように遺伝子の変異が世代から次世代に引き継がれていくことを意味しています。「小児期の呼吸器感染症」は２０年６月号の町医者だより（小児喘息の分類について）でも触れていますが、喘息の発症に関連があります。すなわち、COPDの発症リスクファクターとして「喫煙」と「喘息ないしは喘息関連因子」が重要なことを示しています。

喘息の患者さんはタバコを吸ってはいけません

私を含め多くの呼吸器科医が感じていることは、COPD患者さんでも特に呼吸機能が悪い患者さんには小児期に咳が出やすかったり元々喘息があったのではないか思われる患者さんが多いのではないかということです。喘息の患者さんや喘息の家系の方は、喫煙を避けるべきだと思います。